

富山県におけるクロハゲワシ *Aegypius monachus* の記録

見浦沙耶子¹⁾ 堺 健司²⁾ 間宮寿頼¹⁾

Sayako Miura Kenji Sakai Kazuyori Mamiya

Record of the Cinereous Vulture *Aegypius monachus* in Toyama City, Toyama Prefecture, Japan

¹⁾ Toyama outdoor nature museum 1-1 Yoshizumi Futyu-machi Toyama, Toyama 939-2632, Japan

²⁾ 156 Horikawa-machi Toyama, Toyama 939-8072, Japan

はじめに

クロハゲワシ *Aegypius monachus* は、ヨーロッパ南部からトルコ、イラン、アフガニスタン、中国中北部、モンゴルにまたがる地域で繁殖する。多くは留鳥であるが、アジアに分布しているものはインド、中国、朝鮮へ移動し越冬するといわれる(森岡ほか, 1995)。日本ではごく稀な迷鳥であり、北海道から沖縄まで記録がある(日本鳥学会 2012; 永井, 2016 など)。その多くは冬季(12月から4月ごろ)の記録である(森岡ほか, 1995)。

2023年12月、富山県富山市において本種が観察されたので報告する。なお、清水・高畑(2023)による富山県の鳥類目録では、計22目68科356種が確認されているとあるが、本種の記録はなく富山県初記録の可能性もある。

観察記録

2023年12月1日7時30分頃、富山県富山市婦中町長沢(標高18.6m)の水田で、田と田の間の砂利舗装された農道に佇んでいるクロハゲワシ1個体が堺によって観察された(図1)。天候は曇りであった。堺はスマートフォンで動画を撮影しており、同日10時頃に富山県自然博物館園ねいの里に情報が寄せられた。

撮影された個体は頭頸部や尾も含めて全身黒褐色であり、耳の辺りの裸出部は小さく、頭頂、頭側から後頭側部、頸側にかけてほとんど皮膚が露出していないことから、幼鳥もしくは頭頸部の

裸出がまだ進んでいない年齢の浅い若鳥であると考えられる。両方の肩辺りに白い楕円形の物体が装着されているように見え(図2)、これらは調査用のウイングタグの可能性はあるが、撮影画像からは文字等の読み取りは出来ず詳細は不明である。

クロハゲワシはカラス類(*Corvus* sp.)からモビング行動を受けながらも動じる様子もなく、カラス類が飛び去る中、車から遠ざかるように歩いて移動していた。撮影を終えた後は、農道から飛びたち280mほど北に移動し山田川の左岸に降りた。その後は現地を離れたため観察はできておらず、同日午後にも確認地点の周囲を探したが再確認はできなかった。



図1.クロハゲワシ(富山市長沢,2023年12月1日,堺撮影の動画を切り抜いたもの)。



図 2 .肩部の白い物体は左右両方に確認された。

引用文献

- ・森岡照明・叶内拓哉・川田 隆・山形則男, 1995. 図鑑日本のワシタカ類. 631pp. 株式会社文一総合出版, 東京都.
- ・永井真人, 2019. ♪鳥くんの比べて識別! 野鳥図鑑 670 第 3 版. 400pp. 株式会社文一総合出版, 東京都.
- ・日本鳥学会, 2012. 日本鳥類目録改訂第 7 版. 日本鳥学会, 三田.
- ・清水海渡・高畑晃, 2023. 富山県の鳥類目録. 富山市科学博物館研究報告 47 号, pp109-111.